

沖縄平和学習映像教材 第4編:ベトナム戦争と沖縄

探究ワーク

ベトナム戦争の被害-枯葉剤の深い傷跡

指導案・生徒用ワークシート(25 分)

探究ワーク:ベトナム戦争の被害 - 枯葉剤の深い傷跡

ベトナム戦争では、広大なジャングルに潜むゲリラを掃討するため、アメリカ軍は「枯葉剤(Agent Orange)」と呼ばれる除草剤を大量に散布しました。この行為は、戦後も長く続く深刻な被害をベトナムと世界に残しました。

人体への深刻な影響

枯葉剤に含まれるダイオキシンは猛毒で、ベトナムの人々だけでなく、米軍兵士にもがん、神経障害、先天性障がい(先天異常)をもつ子どもの誕生など、数多くの健康被害を引き起こしました。これらの症状は、散布から数十年経った今もなお、世代を超えて続いています。

環境への壊滅的打撃

枯葉剤はベトナムの広大な森林を破壊し、豊かな生態系を失わせました。土壌や水質の汚染は深刻で、農地の回復は困難を極め、食料生産にも長期的な影響を与えています。その傷跡は今もベトナムの大地に深く刻まれています。

「終わりのなき戦争」の象徴

枯葉剤による被害は、戦争が終わっても苦しみ続ける「終わりのなき戦争」を象徴しています。戦後処理と被害者支援は、国際社会にとって重要な課題であり続けており、現在も多くの人々が苦しんでいます。

ベトナム戦争では、アメリカ軍が森林に潜む兵士を発見しやすくするため、ベトナム各地に大量の枯葉剤を散布しました。その影響は、戦争中の人体被害だけでなく、戦後も健康被害や森林・土壌の汚染として残り続けています。また、被害を受けた人々への補償や医療支援、環境の回復も、現在まで続く課題となっています。このように、戦争による被害は、戦間が終わればすべて終わるとは限りません。

- ☐ Q:あなたは、戦争を始めたり遂行したりした国は、戦争終結後も被害者や被害地域に対し、いつまで責任を負うべきだと考えますか。300字程度で考えをまとめましょう。

▼ 考えるためのヒント

- ① 法的責任 vs 道義的責任(条約による取り決めと、医療・環境回復などの人道的支援)
- ② 当事国 vs 国際社会(戦争当事国だけの責任か、世界全体で分担すべき課題か)
- ③ 時間と世代の視点(被害が次世代に続く場合、後の世代が負うべき役割とは何か)



戦争が終わった後も続く被害を手がかりに、被害者への支援、国の責任、将来世代の負担を考え、自分の考えをまとめる。

探究ワーク:ベトナム戦争の被害-枯葉剤の深い傷跡

学習指導案 中学生・高校生対象 25 分 A4 2 枚

中心の問い:戦争を始めたり遂行したりした国は、戦争終了後も被害者や被害地域に対して、いつまで責任を負うべきか。2つの論点を比べ、期間・条件と理由を約 300 字で説明する。

1 本時の目標と準備

目標:①戦後も続く被害や支援の課題を資料から読み取る。②被害者救済と将来世代の負担など、異なる視点を比較する。③反対の立場にも配慮し、責任の期間・条件と支援のあり方を説明する。

準備:今回の探究ワークと「2つの論点の中にある対立点」のスライド2枚、ワークシート1枚、筆記用具。4人程度の班をつくり、資料を投影または配布する。2つの論点は、判断を考えるための視点として扱う。

2 本時の展開 25 分

時間	学習活動	教員の働きかけ・指導上の留意点	学習の狙い・評価
5 分	被害と課題を読み取る 第1段階に、続いている被害と必要な支援を整理する。	1分で中心の問いを示す。2分で1枚目を読み、「健康・暮らし」「環境」「戦後も続く課題」に注目させる。2分で被害と支援を組にしてメモする。 発問①「戦争が終わっても何が残っていますか」 発問②「その被害にはどんな支援が必要ですか」 声かけ「被害の例と、必要な支援をつなげて書こう」	狙い:判断の根拠を持つ。 評価:資料に基づいて被害と支援を示せるか。
8 分	2つの論点を比較・対話 第2段階に、各論点の理由と課題、自分の判断の条件を書く。	2分で2枚目を読み、各論点が重視するものを確認。2分ずつ両方の理由を出し、最後の2分で別の理由や両立の条件を探す。班の結論を統一する必要はない。 発問①「支援を続ける理由は何ですか」 発問②「将来世代の負担にどう配慮できますか」 声かけ「自分と異なる考えにも理由を一つ挙げよう」	狙い:複数の視点を比べる。 評価:両方の理由や課題を捉えられるか。
7 分	各自で約 300 字にまとめる いつまで・どんな条件で・誰が何をするかを書く。	1分で結論、2分で理由と資料の例、3分で別の立場への応答や支援の方法を記述。最後の1分で読み直す。期間は年数だけでなく、被害や回復の条件でも示せると説明する。 発問①「責任を続ける・区切る基準は何ですか」 発問②「異なる立場の懸念にどう答えますか」 声かけ「結論、理由、別の見方への考えをつなごう」	狙い:判断と根拠を結ぶ。 評価:期間・条件と理由が具体的につながるか。
5 分	共有して考えを見直す 加筆し、現地で確かめたい問いを残す。	3分で文章を読み合い、理由や条件が分かる箇所を伝える。2分で加筆し、未確認の点を現地や資料で確かめる問いにする。賛否や結論の一致で評価しない。 発問①「どの条件を加えると考えが明確になりますか」 発問②「沖縄での学びと、どんな問いでつながりますか」 声かけ「納得した点と、まだ考えたい点を伝えよう」	狙い:判断を深める。 評価:他者の視点を受けて説明を見直せるか。

指導上の留意点

国の責任と個人の罪を区別し、後の世代に個人としての罪を負わせる議論にしない。条約などによる法的な扱いと、医療・生活・環境への支援を分けて考える。具体的な法的義務の有無は、この2枚だけで判定しない。

到達のイメージ

続く被害を根拠に、支援の期間や見直しの条件を示せる。被害者の生活と将来世代の負担の両方に目を向け、責任を負う国と国際社会の役割を区別しながら、自分の判断を約 300 字で説明できる。

2つの論点を比較する授業の支援

3 2枚の資料をどう使うか

1枚目では、戦後も健康・生活や森林・土壌などへの影響が残り、医療支援、生活への協力、環境回復が課題になるという関係を捉える。被害の大きさへの感想に加え、「何を支える必要があるのか」を考える。具体的な病気や被害の範囲を、資料以上に広げて断定しない。

2枚目では、①被害者救済と道義的責任、②国際法秩序と将来世代の公正という2つの視点を比較する。どちらかを正解として先に示さず、それぞれが守ろうとするものと、残る課題を生徒に言葉にさせる。

4 対話を深める3つのヒント

① 法的責任と道義的責任

条約や合意による法的な区切りと、被害が続く人への医療・生活・環境の支援は、同じ問題とは限らない。「法的な区切りがあれば、どの支援まで終えるのか」「支援を続ける理由は何か」を考えさせたい。資料の一般的な論点を、特定の国の法的責任についての確定的な説明として扱わない。

② 戦争当事国と国際社会

責任を負う国の役割と、国際社会が協力できる役割を分ける。「医療・環境回復・資金・技術のうち、誰が何を担うか」「国際協力を増やしても、当事国の役割は残るか」と問う。支援を分担することと、責任そのものがなくなることを同一視しない。

③ 時間と世代

被害が続く人や次世代を支える必要と、戦争を決めていない将来世代の負担への配慮を比べる。「年数で区切るか、回復の状態で判断するか」「誰が、どんな資料で定期的に見直すか」と考えさせる。継続が終了かだけでなく、支援の内容や分担を変える考え方も検討できる。

5 ヒントを示すタイミングと声かけ

まず生徒のメモを見て、止まっている点を確認する。被害の例が出ない時は1枚目の該当箇所へ戻す。一方の論点だけになる時は「もう一方が守りたいものは？」と聞く。結論が曖昧な時は「何が続く間は必要？ どんな条件なら変える？」と絞る。ヒントを一つ示したら、本人が考えて書く時間を取る。

6 約 300 字へのまとめ方

①自分の結論:いつまで、どんな条件で責任を負うか。②理由と根拠:資料の被害・支援の例を挙げる。③別の見方への応答:将来世代の負担や被害者の不安にどう配慮するか。④具体化:支援の内容、分担、見直しの条件を示す。文章の形は一律にせず、考えのつながりを重視する。

7 学級に応じた進め方 いずれも 25 分

プラン	時間配分	特徴と支援のポイント
協働型	資料5分 → 対話8分 文章化7分 → 共有・修正5分	班で両方の理由を出してから各自で書く。発言が少ない生徒には、重視した言葉を一つ挙げてもらう。
併用型	資料5分 → 個人整理7分 共有8分 → 加筆・修正5分	先に立場と理由の下書きをつくる。共有で別の視点を加え、期間・条件を明確にする。
自立型	資料5分 → 個人解答7分 比較8分 → 修正5分	個人で文章化し、理由・条件・別の立場への配慮を互いに確認する。結論の違いを認めて比べる。

8 評価と現地学習への接続

資料に基づく理由、異なる視点への配慮、責任の期間・条件の具体性を見取る。沖縄では資料館の展示や講話から「戦後も続く影響」「生活再建や支援の課題」を確認する。ベトナムの事例と同じ被害があると決めつけず、共通点と違いを整理する。

出典:今回提供の探究ワークと「考えるヒント:2つの論点の中にある対立点」のスライド2枚。

沖縄平和学習映像教材 探究ワーク

ベトナム戦争の被害 — 枯葉剤の深い傷跡

年 組 番 名前

日付

戦争を始めたり遂行したりした国は、戦争終了後も被害者や被害地域に対して、いつまで責任を負うべきだと思いますか。2枚の資料を読み、約 300 字でまとめよう。

第 1 段階 続いている被害と必要な支援を整理しよう

1枚目から「被害」と「必要な支援」を組にして書こう。

ヒント:健康・暮らし／森林・土壌などの環境／医療・生活への協力・環境回復。

第 2 段階 2つの論点と判断の条件を整理しよう

両方の理由と、気になる課題を書こう。自分の考えに取り入れられる点も探そう。

論点① 被害者救済と道義的責任 ヒント:被害が続く人への支援を、どう保障するか。

論点② 国際法秩序と将来世代の公正 ヒント:後の世代の負担や、国同士の関係をどう考えるか。

私が重視する条件 ヒント:支援を続ける期間・回復の基準・国際的な分担・見直し方。

自分の考え 約 300 字(字数はあまり気にせず書いてください)

「いつまで・どんな条件で」という結論と理由を書き、異なる立場への考えも含めよう。

書くヒント:結論 → 資料に基づく理由 → 別の見方への応答 → 支援の内容や分担。

現地や資料で確かめたい問い

戦後も続く影響や支援について、何を確かめたいですか。どこで確かめられそうですか。

25 分 自分と違う考えにも理由を見つけ、共有後に加筆しよう。資料:今回のスライド2枚。